大屋小学校
学校だより

大屋っ子

平成２９年
６月２６日
ＮＯ ４

－目指す児童像－
よく考える子
仲よくする子
心身ともにたくましい子

体験したことは身につく
～失敗を恐れずに～

「聞いたことは忘れる、見たことは覚える、やったことはわかる」とよく言われます。この出典は、『荀子』（儒効篇）の「不聞不若聞之、聞之不若見之、見之不若知之、知之不若行之」（聞かないことは聞くに及ばず、聞くことは、見ることには及ばない。また見ることは、理解することに及ばない。しかし理解することは、それを実践することには及ばない。したがって学問は実践の段階にまで至って終わるのである）だそうです。〔『中国名言名句の辞典』小学館〕。体験活動の大切さ、また実践できる力を養うことの大切さをよく言い表していると思います。

学校生活の中にも日々いろいろな体験活動があります。最近のことを例に挙げると、１年生が鉄棒の授業を行っていました。しばらくすると、「○○ちゃん、がんばって！」「だいじょうぶやよ！」「さっきよりも跳べたよ！」「○○してみたらいいよ！」という声が聞こえてきました。上手くできなかった友だちに何人もの子が優しい声かけをしているのです。先生から指示されたわけではなく、自然と素直な気持ちから発せられた言葉です。まさにこれが生きた体験だと思います。優しく声かけされたことでその子は期待に応えて頑張ろうとし、応援した子は先生に「優しいね。」と褒められ、周りの子も「こういうときは応援したり、できなくても頑張ったりすることっていいことなんだな。」と、実体験から学ぶことができました。子どもたちは周りから助けられ、認められることで「自己存在感」が高まり、お互いに安心して言い合えることで「共感的人間関係」が育っていきます。このような体験が次への実践に繋がっていきます。

さて、今求められている力は、学んだことを知識として蓄えておくのではなく、学んだことをもとに、**『自分で考え、創造し、実践していく力』**です。先日のプール掃除では、４～６年生が全校児童のために一生懸命働いてくれました。その分、昨年よりも早く終了できたようです。この体験活動後に、４年生はプール掃除でどんな力がついたかを短作文で振り返りました。その中には、「大変だったけれど、きれいになって心がすがすがしい気もちになりました。」「頑張る心が育ったので、これからももっと育てたいです。」「協力する心が育ったので、みんなで頑張ることができます。」など前向きな意見が多く、自分の活動を振り返り、次にその力をどこで発揮すべきかを考えるよい機会になりました。

『体験したことは身につく』。実践の段階では失敗することもあるでしょう。「どうせできないから無理」とか「失敗したらどうしよう」と考えるより、行動してみることが大事です。自分で経験したことは必ず身につきます。特に失敗した経験は覚えているものです。「なぜだろう。どうしてだろう。」と考え、また行動（実践）し改善していくことで、より深い力となっていきます。

今後もいろいろな体験を通して子どもたちの実践力を育てていきたいと考えていますので、保護者の皆様のご協力をお願いいたします。

校長　　小田原　明子